

4月23日に、本校6年生122名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数)

国語・算数ともに府・全国平均を上回り、基礎的・基本的な学習内容の定着が進んでいます。文章や資料を読み取る力、計算技能、図形や数量関係を理解する力が身に付いてきています。一方で、根拠を明確にして考えを説明・記述する力の育成が今後の課題として見られました。

国語科より

国語科は、平均正答率が府・全国平均を上回り、知識・技能や読む力に強みが見られます。一方で、書くことや記述式問題、情報を整理して根拠を明確に表現する力に課題があります。今後は、授業の中で資料や文章を比較して読み取る活動、自分の考えを理由とともに書く活動、友だちと考えを交流して表現を見直す活動を継続的に取り入れていきます。



算数科より

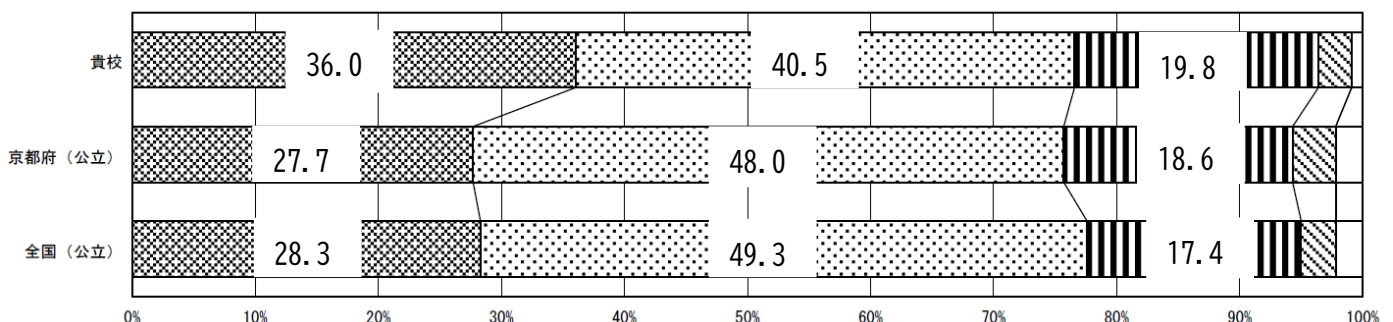
算数科は、平均正答率が府・全国平均を上回り、基礎的な計算技能や数量関係、図形・測定に関する理解に強みが見られます。一方で、割合や数量の関係を捉え、根拠を数や言葉で説明する力、資料や表を読み取って判断する力に課題があります。今後は、図や数直線、表を使って考えを整理する活動や、解き方の理由を友だちと説明し合う活動を継続的に取り入れていきます。



児童質問紙調査から①

Q 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

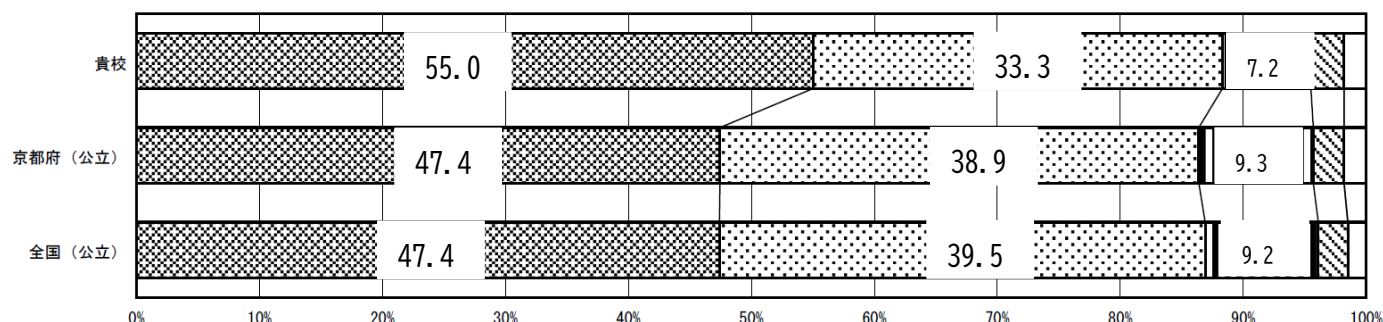


「当てはまる」が36.0%で、京都府27.7%、全国28.3%を上回っています。また、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると76.5%となっており、多くの児童が、授業の中で自分から考え、課題に向かおうとしていることがうかがえます。これは、本校が大切にしている「自分で課題を認識する」「分析する」といった学び方とつながる成果と考えられます。特に、家庭学習の「けてぶれ(計画・テスト・分析・練習)」や授業での「分析」を通して、児童が受け身ではなく、自分の学びを自分で進めようとする姿勢が育ちつつある点が見られています。

児童質問紙調査から②

Q 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

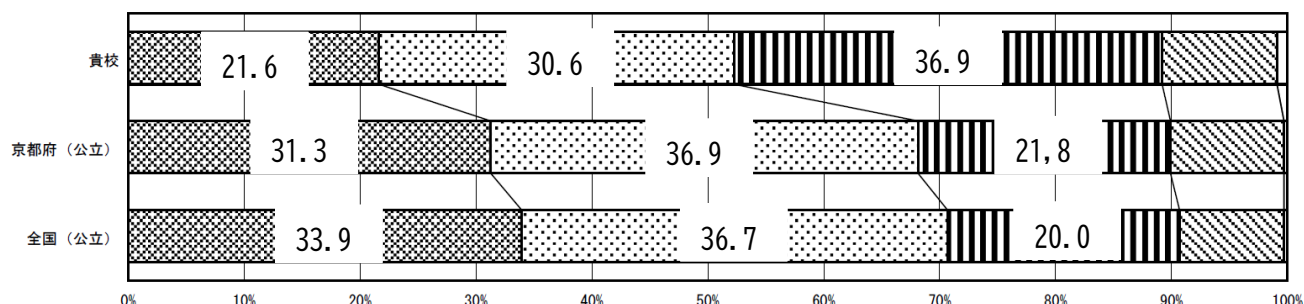


「当てはまる」が 55.0%となり、京都府 47.4%、全国 47.4%を大きく上回っています。また、「どちらかといえば当てはまる」を含めた肯定的回答は 88.3%に達しており、多くの児童が道徳の授業に主体的に参加していることがうかがえます。本校が重点的に進めてきた対話を重視した道徳授業の成果が表れているものと考えられます。友達との意見交流を通して多面的・多角的に考え、自分の生き方について考える学習が定着してきていることがうかがえます。

児童質問紙調査から③

Q 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



「当てはまる」が 21.6%で、京都府 31.3%、全国 33.9%を下回っています。また、「どちらかといえば、当てはまらない」が 36.9%で、京都府 21.8%、全国 20.0%より高くなっています。本校では、チーム担任制を導入しており、多様な教員との関わりを通して、一人一人の子どもを多面的に見取ることができる体制を整えています。子どもたちは、チーム担任制の中で不安や困りごとを感じるがあっても、それをそのまま抱え込むだけではなく、自分なりに解決したり、関わる先生を選んで相談したりしながら過ごしています。これは、チーム担任制の課題というよりも、子どもたちが多様な大人との関わりの中で、自分で考え、行動する力を育てている姿として前向きに捉えることができます。

今後は、チーム担任制の強みをより生かしながら、日常的な対話や教育相談の機会を充実させるとともに、「相談してよかった」と感じられる経験を積み重ねられるよう取り組んでいきます。また、学級活動や道徳科の学習を通して、自分の考えを安心して表現したり、多様な考えを認め合ったりする風土づくりをさらに進め、子どもたちが安心して学び、成長できる学校を目指していきます。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「過去から学び、未来を展望し、今を大切に生きる子の育成」～しなやかに 夢中に 安心安全に～を学校教育目標として掲げ、保護者や地域の皆様と力を合わせながら教育活動を進めています。

私たちが目指す「確かな学力」とは、基礎的・基本的な知識や技能の習得ではありません。身に付けた知識や技能を活用しながら、自ら考え、判断し、表現する力を育むこと、さらに学ぶことへの意欲を高め、生涯にわたって主体的に学び続ける力を培うことを大切にしています。こうした力は学校での学習だけでなく、家庭や地域での経験を通して育まれるものであり、地域全体を学びの場として捉える視点が重要であると考えています。

そのような力を支える土台となるのが、「自分で勉強する習慣」です。自ら計画を立てて学習に取り組み、見通しをもって行動する経験は、自立した学びにつながります。そのため、本校では学習習慣の形成を学力向上に欠かせない要素として位置付けています。

全国学力・学習状況調査の結果からは、本校の学力が着実に向上している様子が見られる一方で、家庭での学習の取り組み方には個人差があり、予習や復習など授業以外での学習習慣については課題も見られます。この傾向は6年生だけでなく、本校全体として引き続き改善を図っていく必要があります。

こうした課題に対して、本校では家庭学習に「けテぶれ」を取り入れ、自分で課題を見つけたり、学習の成果や間違いを分析したりしながら学習内容を定着させる取組を進めています。また、授業においても「分析」をキーワードに据え、自分の考えや学び方を振り返る場面を大切にしています。個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、子どもたち一人一人が「わかる喜び」を実感できる授業づくりを進めてきました。

今後も、「けテぶれ」や「分析」を通して、自ら学習を調整しながら学び続ける力を育み、子どもたちが学ぶことの楽しさや面白さを実感しながら主体的に成長していけるよう支援を続けていきます。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたち一人一人の学習の様子を把握し、そのよさや可能性をさらに伸ばすとともに、課題の改善につなげるために実施されるものです。調査結果は学力のすべてを示すものではなく、学校同士の順位を競うためのものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域が連携しながら日々積み重ねていくことで身に付くものであり、規則正しい生活習慣や継続した学習がその土台となります。今回の本校の結果を見ると、これまでの調査結果と比べて学力は着実に向上しており、ご家庭での温かい見守りや励まし、日々のご支援の成果が表れているものと考えています。今後とも、子どもたちの健やかな成長とよりよい学習環境づくりにご理解とご協力をお願いいたします。

